

2008(平成20)1.31

# 漢詩神奈川

第3号

神奈川県漢詩連盟

横浜市旭区中沢  
3-39-9

電話045-361-2033

FAX045-361-2033

発行人 中山 清

編集人 田原 健一

## 大盛況！北鎌倉の吟行会

### 紅葉の円覚寺に44名

起こった。

石川先生の七絶と五律、窪寺先生の七絶を左記に掲げる。

旧臘五日(金)、連盟主催の吟行会が鎌倉円覚寺に於いて行われた。当日は朝から快晴に恵まれ、集合地の北鎌倉駅頭には会員の笑顔が続々と揃う。結局、参加者は総勢44名の多きに達した。当日の趣興として用意していた柏梁体の詩稿用紙も予想外の参加者増で慌てて韻字を追加する始末であった。

紅葉の盛期をピタリと当てたことはなかなか難しい。この点、地元在住の磯野衛孝理事の予想が見事に的中し、円覚寺境内は楓の紅葉の最盛期で、黄葉の銀杏とあいまって錦繡の好景を呈していた。そして寺僧の案内により、普段はめったに拝観できない国宝の舍利殿の由来や僧の修行のエピソードなど拝聴する事が出来た。

吟行散策の後は山門前の割烹(鉢の木)での昼飯と懇談会。

冒頭、中山清会長の主催者挨拶のあと、全日本漢詩連盟会長の石川忠久先生と同常務理事の窪寺啓先生のご挨拶があり、両先生の当日詠が披露されて参加者の大きな拍手が

圓覚寺吟遊

岳堂 石川忠久

小春閑坐塔頭中

小春閑坐す塔頭の中

時有微風翻落紅

時に微風ありて落紅を翻す

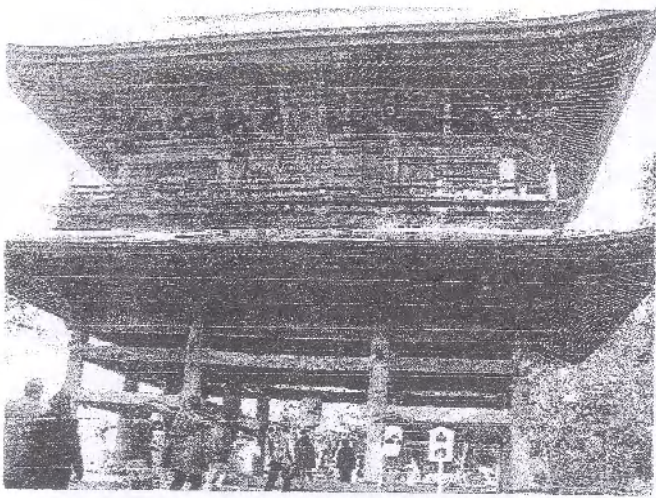
案句喫茶喜僧話

句案じ茶喫し僧話を喜び

塵心滌盡愆帰東

塵心滌ぎ尽くして東に帰らんと欲す

んと欲す



円覚寺

山門

又

禪室鎌山奥

禪室 鎌山の奥

元承右相恭

もと右相の恭を承く

清遊期此日

清遊 此の日を期し

暖燠在初冬

暖燠 初冬に在り

散策三門徑

散策す 三門の徑

躊躇百寿筵

躊躇す 百寿の筵

庵中僧話後

庵中 僧話の後

帰路聴洪鐘

帰路 洪鐘を聴く

注 右相＝源実朝のこと

孟冬謁圓覺寺

貫道 窪寺啓

禪堂千載寂山陽

禪堂 千載 山陽寂たり

模倣唐風舍利殿

唐風を模倣し 舍利殿す

鬱鬱瓊林如擁屋

鬱々たる瓊林 屋を擁するが如し

が如し

松楓五彩劃天蒼

松楓 五彩 天蒼を劃す

宴なかば、連盟の監査役住田笛雄氏より石川先生の当日詠の吟詠が行われ会場は更に和やかになった。参加者の数人からも鎌倉や円覚寺にまつわる思い出話や、参禅の経験談などが紹介された。現代に生きる禅林、円覚寺の姿に改めて親しみを感じる。この出来た一日であった。歴史を彩る古刹寺社や人物も数多く、吟行地として相応しい場所であること、(鎌倉は風雅の地)であることを実感させられた。十二月とは思えない暖かな日差しのもと紅葉に出会った幸運に感謝しながら、夕陽の差し始めた北鎌倉の谷戸を後にした。(桜庭 慎吾 記)

## ◆研修会に出席して

匿名希望

二回目の研修会は平成19年10月23日総勢23名もの漢詩人が集まったの会でした。事前に提出配布された詩稿のコーディネート集に沿って、作者からの説明がなされ、これに対し皆が疑問や意見が述べられるという形で進んでいきました。

そんな研修会の中で感じたことをとりとめもなくお話し、頼まれた文責を果たしてみようと思えます。

1. 予想外に、皆さんが優しく接しておいででした。厳しい批評指摘を内心恐々としていた身としては、胸をなでおろしました。速慮でしょうか？同好の仲間うちであるという暖かい気持ち全体が雰囲気としてある為でしょうか？青眼と言うのかそんな視線のなかでした。

ただ切磋琢磨の研修という観点からは、悔しい思いをする位の冷たい指摘もあつていいのかなとも思いました。会長さんは座長としてその辺りの事をお考えなのでしょう、時折叱責気味の鋭い指摘をなさっておいででした。何回も出て気が知れるようになれば、丁々発止といくのでしょいかね。

2. 実力の格差が否応なしにあるように思えました。いってみれば、小学生と高校生(あるいは大学生の方も)が一緒に授業をしているような状況なのかなとも思いました。上級中級初級と分けることは難しいのでしょうか。囲碁や将棋

みたいに段位制があれば楽なのでしょうが。そのうち漢詩実力認定試験なんてのが実施されたりして！

3. 沢山の方の詩を順に皆で検討鑑賞していくとなれば、否応なしに会の進み方は平板にならざるをえず、しゃべる人はしゃべる、素養に自信の無い身としては、ごもつとも拝聴するのみです。そこで、一案。各人が自分の詩の説明もすることながら、必ず集まった詩の中から一番いいと思ったものを最優秀作品として選んで発表するという形を加えるとすれば如何でしょうか？幹事さん、検討してください。

私の先日の研修会での一番詩は、飯沼一之さんの『中秋』でした。押韻が仄声の詩であることも私には新鮮でしたし、なによりも結句のユーモラスな落ちに心が落ちました。その詩をご紹介することで、感想を終えます。

『中秋』

飯沼 一之

今宵八關逢明月 皎皎清光心緒發

探索衛星征彼蒼 凡夫凭檻搔霜髮

終

## ◆お願い

新人さんを紹介して下さい

事業予定にも記載しておりますが、今年も第2回目の「初心者入門講座」を4月8日から3ヶ月間開催します。

お願い事は、お知り合いやお友達で漢詩実作にご関心のある方をご紹介頂けないかということです。

漢詩人を増やすことは、当連盟設立目的の大きな一つの柱であります。去年実施の「初心者入門講座」はお陰さまで約20名程度、漢詩を作ってみようという私どもの仲間を増やす事が出来たのではないかと思っております。(第一期生は梅本さんの記事のとおり「初度の会」を結成、勉強を続けることので嬉しい限りです)それだけに、第2回目も沢山の人にご参加いただいて、この講座を定着させたく、皆様の協力をお願いしている次第です。中山会長の授業ぶりも快調で堂に入ってきています。約30名程度の生徒を集めたいと思っております。ご協力をお願いします。事務局あてにご一報下されば、その方にご連絡します。

お友達にお勧めいただくべく、チラシをつくりました。ご活用ねがってお一人でも多くご紹介くださるようお願いいたします。



## ◆「初度の会」の発足 梅本光男

神奈川県漢詩連盟行事計画の一環として開講されました初心者入門講座、中山清会長をはじめ役員先生のご指導を得て無事終了した事はすでにお聞き及びと思います。講義終了にあたって、会長より受講者に対し、継続は力であること、做多(多作)の努力をするようとのご指導があり、皆で集まって勉強を続けられては如何かとのアドバイスをいただき、講座の延長としての勉強会を持つ事としました。

旧暦十二月二十日にご賛同頂いた二十名をベースとして「初度の会」を発足設立しました。年の瀬のお忙しいなか、中山会長田原局長にもお出まし頂いて、今後の運営について話し合いを持ちました。

要旨のみをお話します。

1. 例会は2月に1回程度とする。
2. 詩の形は、当面七言絶句に限る。
3. テーマを絞り、兼題を設け、その中から一首投稿する。
4. 投稿用紙は当会独自の用紙(基礎的なミスが出ないように工夫した)を使用、例会日の二週間前に世話人へ提出する。
5. 世話人は集まった詩稿を例会前に会員に送付する。
6. 開催場所は当面横浜駅西口の「かながわ県民センター」を予定
7. 世話人は取り敢えず私梅本と乗竹恒男氏、

三上光敏氏の三人とする。

問題は、この会の基本的な性格です。県連盟としては、独立した一つの吟社としてやっていく欲しい、連盟の初心者講座は毎年続けていくしその方に力を注ぐ方針だから、という意向であり、我々としては自主独立の精神をもってこの会を運営してゆかざるを得ない覚悟が必要のようです。一回めの集まりでもこの面でのご意見が出て、具体的な指導支援は無いのか、それなくしては、初心者の集まりで右往左往するばかりではないのかと言う問題が提起されました。それはまたこの会の自主独立運営とも絡み、今後の重要課題でもあり検討中です。とりあえずは会員間の勉強努力や熱意で動いてみて走りながら解決策を探る事としました。

具体的に一会員の詩について名前を伏せて、集まった皆さんで議論しました。大半は唐突に突き付けられても分らないと戸惑い気味でしたが、それでも有効なご意見ご指摘も出て、先生が居なくてもこの程度はやれるのかなと少し自信ももちました。作者の小山田さんも納得、満足の様子でした。

とは言え、出来立てホヤホヤの会、県連盟の温かいご声援が必要と思います。

今年の2月5日(火)から実作の勉強会となります。如何あいなりますか、暖かくお見守りくださるようお願いいたしまして、発足の報告といたします。

(終)

## ◆詩伯唱酬

中山会長が去年「つくってわかる漢詩の味」と言う本を出版され、巷間密かに好評を博している事はご承知でしょうか?お入用でしたら未だ在庫はありますので、事務局までご連絡下さい。

先ごろ、窪寺貫道先生がこの本への賀詞を呈されまして、中山会長も感謝の気持ちを持てどもって応えられました。その両先生の詩の応酬をご紹介します。

中山華舟先生板行「つくってわかる漢詩の味」

賦此以賀

窪寺啓

神農嘗草藥功知  
倣此覈精英俊為  
致仕卅年慶上木  
華舟一棹雅聲彌

中山清

奉和窪寺先生賀詩  
迂翁無才惱老師  
誤刊杜撰不為奇  
厚恩澤潤裁詩筆  
懇請先生容百痼

どちらの詩も結句が決まっていますね。風趣に溢れた応酬です。

# ◆漢詩紀行

(ベトナム編)

石井彦徳

會安日本人墓

賈人情厚 復安南

賈人情厚くして 安南に復る

慰得花顔 弧枕堪

慰め得たり 花顔 弧枕に堪ふるを

犯死恰如 知抱柱

死を犯すこと恰も 抱柱を知るが如し

墓前尚見 酣白蓮

墓前尚見る 白蓮の 酣なるを

「抱柱」＝「抱柱の信」約束を堅く守って融通の利かない事。尾生という男、橋の下で会う約束をした女を待つうち、水嵩がましてきたが、あくまでも約束をまもり、橋下の柱に抱きついて、ついに溺れ死んだ故事。

情の厚い日本の商人 鎖国を犯してベトナムに帰ってきた。独り寂しさに耐えていた恋人と再会を喜んだ。死を覚悟してこの行動 まるで「抱柱の信」の故事を知っていたかのようだ。彼の墓前には、いまだ、白蓮の花が、彼女が寄り添うように今を盛りに咲いていた。

一七世紀前半の三十余年徳川幕府は東南アジアとの朱印船貿易を奨励。安南のホイアンにも日本人町が栄えた。しかし、1633年幕府は鎖国に踏み切る。海外の日本人は帰国出来なくなり急速に衰えた。言い伝えによると、

恋人を残した谷弥次郎兵衛なる人物はその12年後鎖国をかいぐりホイアンに舞い戻ってこの地に骨を埋めた。その墓が現在も残っている。日本人の痕跡は、日本人街と中国人街との間に架かっていた日本橋といくつかの日本人の墓のみである。



左の写真はホイアンの旧港。朱印船が発着した港はすでに砂が堆積して使えなくなっており、その座をダナンに譲っている。日本人が去ってから、ホイアンは中国人の町として繁盛してきた。中国の古街のような風景が観光客を惹きつけている。旧埠頭の辺りには市場があり、活気に溢れていた。

(終)

# ◆葉室麟著「銀漢の賦」

漢詩を主人公の気持ちの代りとして心に残る形で使っている小説に出会った。

文芸春秋社出版の葉室麟著「銀漢の賦」と言う本で、去年の松本清張受賞作である。

地方の小藩の政争を背景に、家老と一藩士の少年時代からの友情と相克を描いた。一讀瀟爽の感がする時代小説である。

その中で蘇東坡の「中秋月」や、陳子昂の詩が出てくる。

「暮雲収尽溢清寒 銀漢無声転玉盤 此生此夜不長好 明月明年何処看」本の題名もこの詩に思いを託してのことのようだ。

作者は松本清張と同じ小倉の出、50歳台の地方記者あがりの方である。藤沢周平を思わせる。歴史小説の新人として何となく期待が持てそうな教養の高さが見える。

# ◆会員動向

○新規加入(平成19年7月以降)

白石秀幸(東京都) 滝川智志(横浜市)

萬谷美次(横浜市) 三浦哲郎(横浜市)

岡崎勝郎(鎌倉市)

○退会

三島謙二(死亡。ご冥福をお祈りします)

○会員数(平成20年1月現在) 108名

### ◆円覚寺吟行伯梁體

吟行会の折、時間の都合もありお預かりした皆さんの伯梁體の句、中山会長がさんさんご苦勞のうえ、意が通るよう並べられました。なにしろ参加者が四十三名、四十三それぞれの想いを繋げるのですから大変だったろうとお察しします。会長曰く「勉強になった」と。熟読玩味してください。

#### その一 (東韻聯句)

白鷺池畔楓葉紅	水紅	中田	英則
蒼古禪堂鷺池東	古田	光子	
晴光滴山滴長空	松田	静子	
錦繡繞樓映蒼穹	椋翁	玉井	幸久
山茶初開紅草叢	飯沼	一之	
淨域清遊媼與翁	蔭紅	石川	晏子
山腹洪鐘苔徑通	桑江	彰子	
鳥聲時響度丹楓	新井	陸郎	
全山紅葉豁雙瞳	磯野	衛孝	
古都幽谷香氣陰	城田	六郎	
紅於映日禪氣充	篋軒	住田	笛雄
揮廟緬想時宗公	小山田	豊実	
克服困難開禪宮	孚兌	梅本	光男
舍利堂屋圍寶工	葦舟	中山	清
興聖禪寺五山雄	苔堂	圓谷	照男
古堂佛像燦金銅	貫道	窪寺	啓
堂前聽得法話豊	本宮	陽子	
寺僧力説千古忠	岡崎	満義	
又説修行意無終	在洲	桜庭	慎吾

#### その二 (冬韻聯句)

一刻坐禪百年功	鈍耕	山田	和雄
解脱能不此頑童	酒井謙太郎		
間坐喫茶心事融	田原	健一	
禪寺殘楓舞微風	尤華	上田	尤子
円覚寺宇晚艶中	葉越	佐々木	正人
門前旗亭詩酒同	坂上	貞夫	
即興銀詠如鳴弓	森	重光	
香城風色興不窮	石井	彦徳	
短日暮陰到忽忽	三上	光敏	
鎌臺古刹曳吟筇	永野	澄	
廣域紺園杖履從	水城まゆみ		
閑靜淨域爽初冬	相原	一輝	
數多堂塔史實重	大本	久	
禪寺建立依時宗	牧菽	中山	重臣
佛堂本承右相恭	岳堂	石川	忠久
瑞鹿山頭瘦嶺松	泰山	岡田	泰男
堂前古柏似臥龍	泰山	三浦	哲郎
躋攀隴上看洪鐘	遊月	松山	正明
西方遙望索富峰	松山	正明	
半天認得玉芙蓉	中野	国武	
山隅僧堂古色濃	小館	裕彦	
紅黄点染禪寺容	宇都宮	義久	
今日吟行好季逢	市川	泰	
塵外清氣豁心胸	高谷	美次	
	内村	才五	終

### ◆緊急！ 研修会のお知らせ

冒頭お知らせのとおり、去年12月開催の円覚寺での吟行会、参加者も多かったのですが、その後お作りになって当方にご投稿頂いた方や教室吟社で披露なさっておいでの方の分を加えると円覚寺の吟行詩は約23人28首にも及びました。

そこでやや唐突ではありますが、お作り頂いた方にお集まり願ひ、この吟行詩に絞っての研修会を実施することとします。お作り頂いた方、奮ってご参加下さるようお願いいたします。

#### 「円覚寺吟行研修会」

○時期 平成20年2月12日(木)午後1時

○場所 神奈川県近代文学館 2階

○申込 2月5日(火)迄に事務局田原あて電話或いはFAXにて。(045-361-2033)

○詩稿送付期限 2月5日(火)まで。

既に投稿いただいた方、窪寺教室湘南吟社等で発表なさっておいでの方は、改めて送付の必要はありません。

また、集まった詩稿はコピーして出席者に事前にお送りしますので熟読の上ご参加下さい。

なおこの研修会を以って、お寄せいただいた吟行詩の発表の場に変えさせていただきます。



### ◆ 神奈川県人 健闘！

○ 多久での受賞 佐賀県多久市で毎年催される「ふるさと漢詩コンテスト」において、平成 19 年度は城田六郎さんが見事、優秀賞を得られました。また理事の古田光子さんも最優秀賞を含め僅か 7 人の入選の中での入賞でした。

この多久の大会は全国的に有名で毎年孔子の里でのお祭りに併せて漢詩のコンテストを行っています。最優秀賞の詩は、なんでも記念碑として建立され、孔子の里公園には過去歴代の石碑がずらりとならんでいるそうです。(今回が第 10 回めで 10 個あるってこと) 私の見るところ、作品の並び順からして城田さんの詩は第 2 位、石碑にあと一歩届かずまったく惜しい！その詩をご披露させていただきます。

對馬淺茅灣

横浜市 城田六郎

點綴青螺夕陽間 點綴す青螺夕照の間  
漣漪瀕岸蔚藍灣 漣漪岸を瀕す蔚藍の灣  
帰帆遠影參差見 帰帆の遠影參差と見え  
洋上模糊望釜山 洋上模糊として釜山を望む

○ 茨城で健闘 「国民文化祭プレイベント」としての漢詩大会が去年 10 月茨城県水戸市で開催されましたが、我が連盟会員の中から田原健一さんが特別賞に古田光子さんが秀作賞(ダブル受賞。凄!)に輝かれ、小林栄一さんも入選されました。田原さんの作品は銅メダルだった為「全漢詩連会報」の今月号に石川忠久先生の「漢詩の妙味」で紹介されています。

木筆

横浜市 田原健一

老懐時夢故山邊 老懐時に夢む故山の辺  
深谷幽林白萼鮮 深谷幽林 白萼鮮やかなり  
怒寫風光玄妙筆 写さんと欲す風光玄妙の筆  
筆尖風起畫蒼天 筆尖 風起きて蒼天を描く

いずれにしても、かかる全国大会においての皆さんの活躍実績は我が神奈川県の水準の高さを示すもので嬉しい限りです。(水城まゆみ記)

### ◆ 多久孔子の里に遊ぶ 城田六郎

去年十一月三日、佐賀県のほほ真ん中、山々に囲まれたローカル線多久駅に降り立った。駅前よりタクシー十分程で孔子の里到着。一帯は小高い丘となっており、地元の人は丹邱の里と呼んでいる。丹邱とは中国で仙人の住む風光明媚な所と言う意味だそうです。

早速孔子廟に参拝する。朱甍の荘重な祠廟である。創建は一七〇八年であるから来年で三百年となる。毎年春と秋とに、秋菜という孔子をしのぶ中国式の祭典が連綿と行われている。ときには廟前で論語を朗読する幼稚園児の姿を見かける事もあるという。

今日の会場である東原庫舎は少し坂を登った所にある。この学校は一六九九年設立というから、足利学校、閑谷学校に次いで古い。徳川時代に佐賀藩では学問を奨励し、藩校での成績の悪い武士は禄高を減らされたという苛烈な歴史がある。

記念講演は石川忠久先生の「草場佩川と三島中州」と題する公開講座である。内容は中州が九州を旅行した際に、佩川その他地元の文人との間で応酬した漢詩を中心として展開された。先生の名調子に引き込まれて二時間はあっという間に過ぎた。最後に今回の応募作品の表彰と講評に移った。

最優秀賞

柄浦観漁

栃木県

大桶敏子

翩翩旗幟舞長風 翩翩たる旗幟長風に舞い  
決皆待機海浦東 皆を決して待機す海浦の東  
漁父一声揚網急 漁父の一声網を揚ぐる急に  
忽看棘蠶躍波中 忽看る棘蠶の波中に躍るを

先生はこの作品を激賞された。前半起承は静、後半は動という対照が良い。特に承句は男性的な力強さを感じ、また結句の躍動感が素晴らしいとのこと。先生はこの作品を目にされた時、この作者は男性との印象を持ったが、実際にはご婦人であることが判って二度びっくりされたそうです。詩の良否は結句にあることは常々窪寺先生よりご指導いただいたことですが、改めて再認識させられました。

最後に石川先生の玉韻をご紹介します。

秋晚重来追舊蹤

丹邱山水仰清容

林中何事褐紅色

不見霜楓見病松

丁亥文化之日

岳堂

### ◆漢詩文とのささやかな縁

酒井謙太郎

中学に入ると漢文の授業があり、十八史略や日本外史などの抜粋の外に、漢詩もあった。

舊苑 荒台 楊柳新たなり

菱歌の清唱 春に堪えず

(李白)

呉楚 東南に坼け

乾坤 日夜に浮かぶ

(杜甫)

崑崙山南 月斜めならんと欲す

胡人 月に向つて胡笳を吹く

(岑参)

何とはなしに心に響くものがあり、漢文は好きな学科の一つとなった。とはいえ、授業の外に更に漢詩文を学ぼうということもなく、普通の中学校生活であった。

高等学校に入ると、漢文の授業は次元が異なり、教材は朱子集注の「論語」「莊子」「會澤正志齋の「新論」などとなった。「莊子」の「逍遙遊篇」の有名な書き出し

「北冥に魚あり、其の名を鯀と為す。鯀の大きさ、其の幾千里なるかを知らず。化して鳥と為るや、其の名を鵬と為す。」この一文を読んだ時の衝撃を忘れ得ない。このように常識を超えた自由な発想、独創的な比喻を駆使する思想家が二千年以前に居たとは、私にはカルチャーショックであった。

やがて戦争の激化、学徒出陣、南方戦線、生還、復学、そして戦後の混乱期に社会人として出発という歳月の流れの中で、漢詩文との縁は

自然と途切れた。

ただ、漢詩文への漠然たる郷愁、憧憬の念が頭の片隅に残っていたのか、齢八十に近く、身体もだんだん言うことを聞かなくなり、何か新しいことをと考えた時に、昔の夢を思い出し漢詩への挑戦となった。

窪寺先生の漢詩教室に入門したが、漢詩の実作は、郷愁や憧憬の念だけで何とか為る様なやわな作業ではない。まして韻や平仄を習ってなかつた私には難行苦行である。

何度か志の萎えんとする中、今日まで続けてこれたのは、先生の「指導と教室の皆さんの」交誼のお陰である。

今後、時に苦しみ、時に楽しみながら漢詩文とのささやかな縁を大切にして行きたい。

終

### ◆時時刻刻

○埼玉県漢詩連盟誕生！

去年十一月に我々の兄弟分とも言うべき単位の漢詩連盟が埼玉県で設立されました。通称を「彩漢連」と言うのだそうです。岡崎副会長と田原でお祝いに伺いました。今年の四月には、栃木県にも漢詩連盟が誕生するそうです。関東ブロックではあと山梨と群馬を残すのみだそうです。神奈川としても後続組に笑われないうように地についた活動をやらねばと、気を引き締めた次第です。

○李白を詩う

去年十一月鎌倉での市民文化祭に、佐藤敏彦氏の「中国の名詩を詩う会」が李白の詩の朗詠会を催されました。鎌倉は我が連盟の方も多くの朗詠会には佐藤主宰始め磯野衛孝さん石川豊さん中田英則さん根津玲子さん等が参加され280名満員の会場の皆さんの拍手を浴びました。独自の朗詠もさることながら、演者の衣裳が古代中国風で印象的でした。

今年六月には同じ趣向で「杜甫を詩う」が開催されます。一度ご覧になられたら如何です？

お問い合わせは左記のとおり

〒2448-0011鎌倉市扇が谷4-26-16

佐藤敏彦氏あて (TEL)0467-24-3918

○座間谷戸山漢詩展

座間市の岡田泰勇さんを軸とした「谷戸山の四季を詠む」漢詩展が、前回お知らせしたあと延期され、やっと今年一月開催が実現しました。散策がてら覗いてみてください。

期間 平成20年1月4日～2月29日

場所 座間市立図書館展示コーナー

お問い合わせは左記のとおり

〒228-0023座間市立野台1-12-10

岡田泰勇氏あて (TEL)046-254-0696

○「漢盟鶏助」第五集

我が連盟の方が多数在席の窪寺教室での詩集第五集が刊行されました。少々余部ありご希望の方は、事務局までお申込下さい。

# 今年の事業予定

カレンダーに予定をご記入ください

**年次総会** 第3回年次総会は、例年通り記念講演と懇親会をかねて実施します。

時期 平成20年6月17日(土)午後1時～4時

場所 横浜市開港記念会館 2階会議室(3ヶ月前の抽選の為不確定。変更の場合別途ご連絡)

記念講演は石川忠久先生です、懇親会は近くの中華街の店を予定(参加費用4千円)しています。

**研修会** 事前に漢詩一首をご投稿ください、集まった詩稿を「トビ」して参加者にあらかじめお配りし

、当日参加者全員で互いに推奨講評等の「感想」「意見を述べ合います。

○「円覚寺吟行研修会」 7頁 緊急研修会にご参照

時期 平成20年2月12日(火)午後1時～3時

場所 神奈川近代文学館 二階会議室

詩作提出は平成20年2月12日(火)既に投稿済みの方、蓮寺教室、湘南吟社で発表済みの方は不要です。

○「定例春季研修会」(春秋2回を予定しています。秋の集まりは追ってお知らせします。)

時期 平成20年6月12日(木)午後1時～4時

場所 神奈川近代文学館 2階会議室

詩作提出は同封投稿用紙にて、平成20年5月27日(火)までに事務局あて郵送してください。  
**初心者入門講座** この4月から期間3ヶ月間、月2回、累計6回程度の講座を開きます。作詩の経験のない方、或いは、道半ばでお止めになった方、この際を学習の絶好の機会として挑戦されては如何でしょうか？

また、お友達やお知り合いで漢詩にご関心がある方がおいてではないですか？ぜひお勧めいただきたく、別添のとおりチラシを作りました。お誘いの際にご活用ください。

時期 平成20年4月～6月 隔週「1」月2回 原則第1および第3火曜日 午後1時～3時

4月8日(火)22日(火) 5月8日(木)20日(火) 6月3日(火)17日(火)

場所 神奈川近代文学館 2階会議室

講師 中山葦舟会長 他

申込 葉書にて事務局宛に申し込む。申込期限 平成20年3月31日(月)

**吟行会** 今年秋、10～11月頃を予定しています。場所時期は確定次第別途お知らせします。

## ◆編集後記

▽去年12月18日の産経新聞で植木等の「スーダラ節」の漢詩が紹介されていた。

作詞の青島幸男氏の娘さんが作られた由、感心した。

雖然知道

分かつちやいるけど

但無法停止

止められない

酔酔酔墮落楽多

スイスイスーダラッタ

酔墮落楽多酔酔

スイダラッタスイスイ

「道を知る然りといえども、ただ停めるすべ無し、酔つて墮落すれば楽しみ多し、酔つて墮落すれば楽しみ多くまた酔う」と読むのだそうだ。語呂合わせの巧みさもさる事ながら、前半「道」と「法」の字を使つての「酔」の繋げかたが旨く、お主、分っているなどの感を深くした。

▽男子の面目を捨て、毎朝「ヨシ」を出す役割を背負うようになった。ヨシの山を見てつくづく考えさせられた。我々の豊かさはもう此処まで来たのか、限界をすでに超えているのではないか。洞爺湖サニットでは我々の飽食暖衣の所まで降りてこない限り解決しないはずである。守拙慣貧の言葉がしきりに頭に浮かぶ。

▽あいも変わらず、会報が遅れ気味で申し訳ありません。今年は去年の暖冬と打って変わっての厳しい寒さ、お体に気をつけてお過ごしください。

(田原)